

日本縦断シンポジウムを企画

「年4200人の命を救える」

口腔がん撲滅委員会

日本での「口腔がん」による死亡者は年間7千人を超え、死亡率はアメリカの2.5倍以上の46.1%に上る(2013年国立がんセンター)。「口腔がん撲滅委員会」の柴原孝彦代表理事(東京歯科大学主任教授)は、「アメリカ並みの早期発見の仕組みが構築できれば、年間で4200人以上の口腔がん死亡者の命を救える」と訴える。同委員会は5月から、口腔がん撲滅に向けて日本縦断「地域」の「口腔がん」を考えるシンポジウムを企画しており、各都道府県を巡回する予定だ。



代表理事の柴原氏

口腔がんは、術後のQOLの著しい低下から「自殺率の非常に高いがん」と言われており、WHOからも「早期発見・早期治療」の推進を勧告されている最重要課題の一つと位置づけられている。

柴原代表理事は「日本は、先進国で唯一、口腔がんによる死亡数が増えている国で、患者さんの口腔を担う医療機関・医療人として急務の課題」とし、日々の口腔医療活動で救える命があるのに関係者に知ってほしいと話す。

2014年から口腔がん撲滅運動を推進し、今年2月16日に一般社団法人の正式団体として設立登記した同委員会の活動目的は、①日本における口腔がん死亡率(46.1%・2013年)を米国並み(19.1%・同)にする

②日本における口腔がん検診及び口腔検診の受診率(2%)を欧米並み(80%)に向上させる③日本全国の歯科医院にて口腔がん早期発見の仕組みを普及させる④日本の全国各地域における歯科医療の病院連携の実現を果たす⑤結果、歯科医療の価値を欧米並みに向上させる。

その一環として、「全国の歯科医院での早期発見(視診・触診・蛍光観察装置の活用)の仕組みの構築」「早期診断支援のための各地域基幹病院との連携体制の構築(遠隔画像診断及び患者紹介の推進)」「日常からの歯科医院における粘膜検診を含む口腔検診の恒常化の推進」を見据えた日本縦断シンポジウムを企画。

「自らの地域で『口腔がんの早期発見と早期治療』の

仕組みづくりをいかに進めるかを考える機会にしてほしい」と柴原代表理事は参加を呼びかけている。

シンポジウムの第一弾は北日本編で、北海道(5月7日)、青森(5月14日)、山形(6月4日)、宮城(6月11日)、秋田(6月25日)、岩手(7月2日)、福島(7月9日)、新潟(8月6日)での開催。各都道府県歯科医師会と歯科衛生士会の後援も得て、座長は各地域の歯科大学や基幹病院の口腔外科教授・部長が務める。柴原代表理事が「なぜ、今、口腔がん検診か?」と題して基調講演を行い、各地域の実態を踏まえて、病診連携や口腔がんを早期発見するための仕組みづくり等に参加者全員で模索する。

定員は各回によって異なるが50~100人で、参加費は1千円。詳細はホームページ(<http://www.oralcancer.jp/symposium2017>)を参照。

口腔がんの罹患数と死亡者数 (2013年国立がんセンターを基に作成)

	罹患数		死亡数		死亡率
	計	男性	計	男性	
膵臓	32,330	16,839	30,672	15,873	94.9%
胆のう・胆管	22,636	11,345	18,225	8,929	80.5%
白血病	11,484	6,615	8,133	4,806	70.8%
肺	107,241	73,727	72,734	52,054	67.8%
多発性骨髄腫	6,356	3,224	4,121	2,062	64.8%
肝臓	47,271	31,244	30,175	19,816	63.8%
食道	21,427	18,145	11,543	9,667	53.9%
卵巣	9,918		4,717		47.6%
悪性リンパ腫	23,919	13,855	11,340	6,339	47.4%
口腔・咽頭	15,560	10,771	7,179	5,128	46.1%
脳・中枢神経系	4,825	2,585	2,198	1,200	45.6%
結腸	78,874	42,108	32,682	16,233	41.4%
腎臓など	21,130	14,241	8,594	5,568	40.7%
膀胱	19,219	14,733	7,685	5,266	40.0%
胃	125,730	86,728	48,632	31,978	38.7%

全国に早期発見システムを